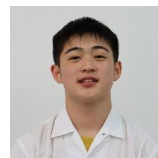


# 戦争のない世の中をつくるために

網走市立第一中学校 三年

伊東 建陽（いとう たけはる）



僕が今回この青少年平和都市友好交流事業の参加を通して、感じたことは4つあります。

1つ目は今自分が平和なところにいるということです。僕はひろしま子ども平和の集いで実際の広島原爆投下の被爆者である、梶本淑子さんによる講話を聴きました。梶本さんの講話では授業で習えないような被爆した当時の感覚、景色、行動などについて教えていただきました。当時はお腹が空いて自分の皮膚や肉を食べていた人がいたこと、水を飲んでしまったことによって死んでしまった人がいたことなどを聞き、今自分は平和な国、日本にいるのだということを改めて気付かされました。また、梶本さんが被爆した年齢は14歳だったのに、友達同士や地域の人で協力し合っていたということも聞き、人々の協力にも驚かされたり、自分だったら被爆したら何ができるかなと考えたりすることができました。

2つ目は戦争の悲惨さです。今回講話を聞いただけでなく平和祈念展示資料館などにも行きました。そこでは太平洋戦争の遺品や当時の状況・写真などが展示されていました。僕は現地のガイドさんの解説を聞きながらそれらを見てみると、戦争がどれだけの人の命を奪ってきたのか、戦争をする意味はあるのか、戦争はどんな意味があってやっているのか、戦争はどれほど悲惨なものなのかということを考えることができました。

3つ目は歴史を学ぶことの大切さです。僕は今回原爆ドーム・ひろしま子ども平和の集いの参加・東京都慰霊堂・平和祈念展示資料館を訪問し、過去に日本であった戦争や地震について知ることができました。これらを通して日本人としてこの戦争の歴史は知っておかないといけないものだと感じました。また、歴史を学び、戦争の歴史をもう繰り返さない、自分たちで将来の平和を築きあげていくということが大切だと感じるすることができました。

4つ目は今後何ができるかです。

これもひろしま子ども平和の集いの参加での出来事です。ここでは全国各地の中高生による平和についての発表がありました。そこで自分たちと同じ世代の人達が平和になるために「自分たちは何ができるのか」や「どうしていけば良いのか」などをそれぞれの視点で発表していて、それを聞いていて具体的に何をすれば良いのかについては考えたことがなかったので、これを通して自分が出来ることを探して行動に移して世界の平和に向かっていくことが重要だと思いました。

今回の交流事業では、戦争について学んだのはもちろんですが、それだけでなく、旅をすることについても学ぶことができました。今回は、突然の豪雨に遭ったり、電車に取り残されたり、残りの女満別空港行きの飛行機が大幅に遅延したりとハプニングも多々ある旅でした。宮島水族館や東京ディズニーランドでは、とても楽しむこともできました。また、今回の旅がきっかけで一緒にいった人たちと仲良くなれたこともよかったです。

今回の事業を通して、感じたことを自分の中でおさめずに、周りに伝えて苦い歴史を繰り返させないことが大切だと思いました。今後は戦争や紛争のない平和な社会になっていけばいいと思っています。